

有明海及び中海の里海としての利用慣行

日本常民文化研究所調査報告 21 集

目 次

1. 研究の目的と経緯	榎村 賢二	1
-------------	-------	---

2. 里海としての有明海（各論）		
1) 有明海の漁撈活動におけるウミ利用と環境変化 ——佐賀県太良町大浦の潜水器漁業——	磯本 宏紀	7
2) 干潟域での漁撈活動にみる漁民の民俗知と環境認識	藤永 豪	17
3) 採集・農耕用具からみた有明海沿岸の暮らし	榎村 賢二	25
4) 戦後の農業経営にみる農家と干潟の関係 ——干拓地の微高低差と作付——	土田 拓	41
5) 前進する陸海の境界・天満宮に寄り集まる神々 ——有明海西岸北鹿島干拓地の石造物調査——	本田 佳奈	49

3. 里海としての中海（各論）		
1) 中海の漁撈活動におけるウミの利用と環境変化 ——島根県松江市江島の刺網漁師の漁業日誌から——	磯本 宏紀	59
2) 汽水・浅水域での漁撈活動にみる漁民の民俗知と環境認識	藤永 豪	73
3) モバ採集用具からみた中海沿岸の暮らし	榎村 賢二	85
4) 戦後の農業経営にみる農家と中海の関係 ——たばこ作導入にともなう肥料利用慣行の変化——	土田 拓	99
5) 彦名町後藤川地区の「舟入」を基点とする 通称地名・生業・信仰物等の聞き取り	本田 佳奈	107

4. 調査研究の成果と今後の課題	藤永 豪	123
------------------	------	-----
